

## 学校経営における企画（運営）委員会の機能

九州大学大学院 西 隆 夫

学校経営のためには教職員の組織がなされている。それは、校務の配分と責任の分担を明確にし、校務遂行の能率化をはかり、一面では現職教育の性格をもつものである。そして、その組織は、学校の規模、校長の経営方針、教職員の意見、地域的条件によって個々の学校により違いがみられる。

組織のなかにみられる企画委員会または運営委員会と呼ばれる機構は、教職員のなかからなんらかの意味で代表として選出されたものから成り、校長と特殊な関係をもつた全校的領域にかかる委員会であると思われる。

ここにいくつかの小学校を例にとって、企画委員会の成員、その機能について、各校の条件、校長との関係に注目しながら、分析を行つてみたい。

## 管理機能としての規律と訓育の交代

—欧米管理思想の受容過程における一現象—

宮 田 丈 夫

渡辺辰次郎の「実験学校管理法講話」（明治39）によると、明治初年は外国の直訳の時代、十年代はアメリカ思想の採用の時代、二十年代はわが国の現状に即して系統化をはじめた時代、三十年代は法規の上から現状をみて系統化した時代であった。明治十年代の学校管理論は、規律主義の立場をとつている。二十年代には教授・管理の二法説が出されているが、その基本にはいぜんとして規律主義がとられている。明治24年11月に出された職務及服務規則が契機となりまたしだいに法規が整備されるようになって、三十年代になると、学校管理論には法規適用主義が出されるようになつた。そして、現象としてみると場合、この時期には、学校管理論としての規律主義と訓育の交代が行われるようになつたのである。なおこの発表は昭和35年度科学技術研究費（各個研究）による研究の一部である。

## 学校経営の歴史

都立教育研究所 高 野 桂 一

明治以降の日本の学校経営の歴史過程については、いまだ必ずしも十分に明らかにされてはいない。いくつかの部分的、概観的な試論がなされてはいるが、学校経営という発想において正面からとり組んだものは少い。体系的、分析的手法の不十分な点で、大きな課題を残している。そのような反省から、日本の学校経営の発展と挫折の過程をできるだけ専門史的にはりさげ、構造づけようとした。